

# 交通流シンポジウムスタイルファイル

石渡龍輔<sup>0</sup>, 渡辺宙志<sup>1</sup>, 交通太郎<sup>2</sup>

<sup>0</sup> 室蘭工業大学 しくみ解明系領域

<sup>1</sup> 名古屋大学 情報科学研究科 複雑系科学専攻

<sup>2</sup> 交通流数理研究会

## 概要

本稿では、交通流数理研究会が主催する研究会、「交通流のシミュレーション」の論文誌に投稿する原稿のフォーマットについて解説します。

## A Sample Format for Proceedings of MSTF

Ryosuke Ishiwata<sup>0</sup>, Hiroshi Watanabe<sup>1</sup>, Taro Kotsu<sup>2</sup>

<sup>0</sup> Department of Mechanical Systems Engineering Muroran Institute of Technology

<sup>1</sup> Department of Complex Systems Science Graduate School of Information Science Nagoya University

<sup>2</sup> The Mathematical Society of Traffic Flow

## Abstract

This document explains how to prepare manuscripts for the **Mathematical Society of Traffic Flow**.

## 1 はじめに

本サンプルは、交通流数理研究会が主催するシンポジウム、交通流のシミュレーションの論文誌に投稿するための原稿のフォーマットを説明するものです。原稿はどのようなフォーマットで用意してもかまいませんが、最終的にPDFで投稿するようにしてください。LaTeXを使う場合は本研究会で用意したスタイルファイルを使うと便利です。スタイルファイルを使わない場合 (Word 等を使う場合) も、なるべくフォーマットを本原稿に似せるようにしてください。以下、スタイルファイルの使い方も含めてフォーマットを解説します。

スタイルファイルは本研究会のウェブサイト [1] よりダウンロードできます。必要なファイルは

`mstf.sty`

`sample.tex`

の二つです。コンパイルには LaTeX 2 $\epsilon$  の後継

である uplatex や lualatex と iftex スタイルファイル [2] が必要です。基本的に `sample.tex` の該当箇所を書き換えるだけで原稿が準備されるようになっております。

## 2 原稿の体裁

### 2.1 原稿の内容

投稿原稿には、順に次の情報を含めてください。

1. 和文タイトル
2. 和文氏名
3. 和文所属
4. 和文概要
5. 英文タイトル
6. 英文氏名
7. 英文所属
8. 英文概要
9. 本文

## 10. 参考文献

原稿は A4 の大きさに用意してください。本文は一段組、二段組のどちらでもかまいません。一段組みにする場合は

```
\documentclass[onecolumn]{bxjsarticle}
```

またはオプション無し、二段組にする場合は

```
\documentclass[twocolumn]{bxjsarticle}
```

と twocolumn オプションを指定してください。

本文のフォントの大きさは 10 ポイント程度にしてください。

## 2.2 タイトル、氏名、概要、所属

タイトル、概要等は和文、英文双方で用意してください。概要には論文の目的、方法等概要を簡潔に記入してください。この中で数式、文献などを番号で引用せず、また脚注も用いないでください。また、概要の中では改行はしないでください。

タイトル、概要などは、対応する命令の中に記入してください。対応表は以下の通りです。

内容	命令
和文タイトル	<code>\title{}</code>
英文タイトル	<code>\titleE{}</code>
和文氏名	<code>\author{}</code>
英文氏名	<code>\authorE{}</code>
和文所属	<code>\affiliation{}</code>
英文所属	<code>\affiliationE{}</code>
和文概要	<code>\abst{}</code>
英文概要	<code>\abstrE{}</code>

表 1: 本研究会スタイルファイルを使った場合の命令対応表。

## 2.3 図の入れ方

図を入れるには `figure` 環境の中で、`\includegraphics` 命令を使います。キャプションの体裁などは図 1 を参照してください。

## 2.4 参考文献の付け方

参考文献は、本文の最後に「参考文献」というタイトルをつけて掲載してください。論文誌

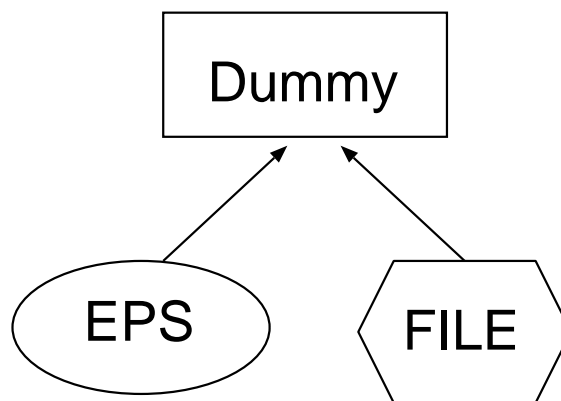


図 1: 図の入れ方。図 1、図 2 とキャプションに番号を振るようにしてください。

の場合は、著者名、雑誌名、巻号、ページ、発行年を記載してください。その際、巻号は太字で表記するようにしてください。書籍の場合は、著者名、書籍名、出版社、発行年を記載してください。

## 3 連絡先

その他、投稿規定や本スタイルファイルに関して質問がある場合は、交通数理研究会 [1]、もしくは石渡 [5] までご連絡ください。

## 参考文献

- [1] <https://mathematical-society-of-traffic-flow.github.io/symposium/>
- [2] <https://ctan.org/pkg/iftex>
- [3] 奥村晴彦, “LaTeX2e 美文書作成入門”, 技術評論社, (1997).
- [4] K. Hasebe, A. Nakayama, Y. Sugiyama, Phys. Lett. A **259** (1999) 135.
- [5] 石渡龍輔, 室蘭工業大学 しくみ解明系領域, E-mail: ishiwata@muroran-it.ac.jp